

令和元年度

事業概要



佐賀県食肉衛生検査所

〒846-0024 佐賀県多久市南多久町大字下多久4127

電話 0952(76)2611

FAX 0952(71)2008

E-mail: shokunikukensa@pref.saga.lg.jp

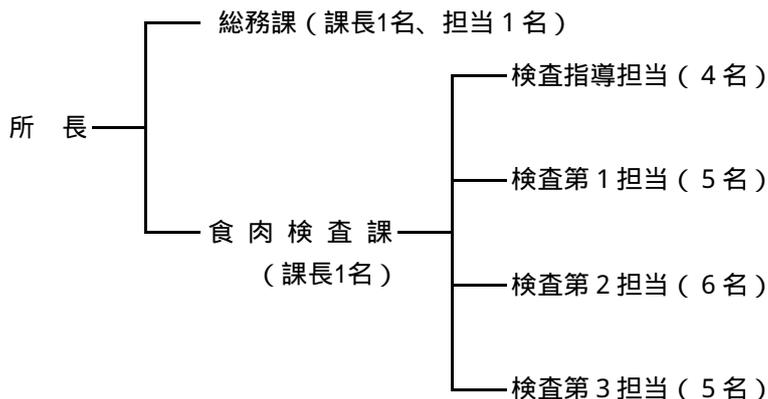
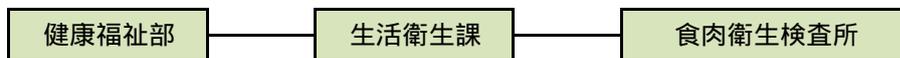
目 次

第1章	検査所の概要	
1	組織及び業務内容	1
2	施設	4
3	備品	7
4	手数料	8
5	県内のと畜場	9
6	と畜検査フロー	10
第2章	検査事業	
1	検査事業の概要	11
2	検査統計	13
(1)	と畜検査頭数の推移	13
(2)	と畜検査頭数の内訳	15
(3)	検査結果に基づく措置状況	17
(4)	病畜の検査状況(県計頭数)	26
(5)	BSEスクリーニング検査結果	28
(6)	精密検査	29
第3章	食鳥肉衛生指導事業	
1	県内食鳥処理場位置図	31
2	事業概要	32
(1)	立入検査状況	32
(2)	収去検査状況	32
(3)	拭き取り検査状況	32
(4)	食鳥検査及び確認状況	33
第4章	調査研究事業	
1	調査・研究・報告の概要	35
	(学会等発表)	
	家畜豚の腹腔から検出されたオンコセルカ科線虫 他	36
2	研修・会議等参加状況	40
第5章	その他の事業	
1	佐賀大学との調査研究	42
2	食肉に関する衛生教育及び施設研修等	42
3	と畜検査結果のフィードバック	42
4	研究機関等への協力	42

第1章 検査所の概要

1 組織及び業務内容

(1) 組織（令和2年6月30日現在）



職員の構成 令和2年年6月30日現在

区分	事務職員	技術職員(獣)	計
所長		1	1
総務課	2		2
食肉検査課		21	21
計	2	22	24

(2) 業務内容

ア) と畜場法に基づき、食用に供する目的で搬入された獣畜について食肉の安全性を確保するため、生体検査・解体検査・BSE検査及び精密検査を行う。

イ) と畜検査の結果、食用として不適と判断された場合、とさつ・解体の禁止、廃棄等の行政措置を行う。

ウ) と畜場及び食鳥処理場における施設の衛生確保を図るため、施設設備の清掃・消毒、そ族・昆虫の駆除、排水処理、廃棄物処理等について監視指導を行う。

エ) と畜場及び食鳥処理場における食肉の安全確保を図るため、監視・指導・検査を行い、病原菌に汚染され、又は汚染されるおそれのある場合、公衆衛生上の必要な措置を講ずる。

オ) 食肉衛生に関する情報の収集管理、調査・研究、知識の普及啓発及びと畜検査の技術の研鑽を行う。

カ) 食品衛生法に基づき、と畜場及び食肉処理場における食肉・食鳥肉の収去検査を行う。

佐賀県食肉衛生検査所設置条例（抄）

第1条 と畜場法（昭和28年法律第114号）に基づくと畜の検査及びと畜場の衛生、食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律（平成2年法律第70号）に基づく食鳥処理場の衛生並びに食品衛生法（昭和22年法律第233号）に基づくと畜場内又は食鳥処理場内における食品衛生に関する事務を分掌させるため、食肉衛生検査所を設置する。

第2条 食肉衛生検査所の名称、位置及び所管区域は、次のとおりとする。

名 称	位 置	所管区域
佐賀県食肉衛生検査所	多久市	佐賀県全域

佐賀県食肉衛生検査所管理規則（抄）

（組織）

第2条 検査所に次の課を置く。

総務課

食肉検査課

（分掌事務）

第4条 各課の分掌事務は、次のとおりとする。

総務課

- 1 公印の管守に関する事。
- 2 職員の服務に関する事。
- 3 文書の収受、発送及び保存に関する事。
- 4 庶務に関する事。
- 5 会計事務に関する事。
- 6 所管事務の総合調整に関する事。
- 7 その他他課の所掌に属しない事項に関する事。

食肉検査課

- 1 と畜検査に関する事。
- 2 と畜検査及び食鳥検査に基づく措置に関する事。
- 3 と畜場及び食鳥処理場並びにと畜衛生及び食鳥処理衛生に関する事。
- 4 と畜場内及び食鳥処理場内における食肉衛生に関する監視、指導、検査及び措置に関する事。
- 5 動物由来感染症（動物から人間へ感染する疾病をいう。）の調査研究に関する事。
- 6 食肉衛生に係る情報の収集管理に関する事。
- 7 食肉衛生に係る知識の普及啓蒙に関する事。
- 8 食肉衛生検査の技術指導及び研修に関する事。

(所長の専決事項)

第 8 条 所長は、次に掲げる事項について専決処理することができる。

- 10 と畜場法 (昭和 2 8 年法律第 1 1 4 号) 第 1 7 条第 1 項及び佐賀県と畜場に関する条例 (平成 15 年佐賀県条例第 17 号) 第 3 条の 3 第 1 項の規定による報告の徴収及び立入検査に関すること。
- 11 食鳥処理の事業の規制及び食鳥検査に関する法律 (平成 2 年法律第 7 0 号。以下「法」という。) に基づく届出及び報告 (法第 2 1 条に規定する指定検査機関 (以下「指定検査機関」という。) に関するものを除く。) の受理に関すること。
- 12 法に基づき立入検査、監督及び指導 (指定検査機関に関するものを除く。) に関すること。
- 13 と畜場内及び食鳥処理場内における食品衛生法 (昭和 2 2 年法律第 2 3 3 号) 第 2 8 条第 1 項の規定による報告の徴収及び立入検査に関すること。

と畜場法及び佐賀県と畜場に関する条例施行規則 (抄)

(事務の委任)

第 7 条 佐賀県食肉衛生検査所長に、次に掲げる事務を委任する。

- 1 法〔と畜場法〕第 1 3 条第 1 項第 1 号の規定による届出の受理に関すること。
- 2 法第 1 3 条第 3 項の規定による指示に関すること。
- 3 法第 1 4 条の規定による検査に関すること。
- 4 法第 1 6 条の規定による措置に関すること。
- 5 政令〔と畜場法施行令〕第 4 条第 2 号の規定による許可に関すること。
- 6 政令第 5 条第 1 項第 1 号から第 3 号までの規定による許可に関すること。

食品衛生法及び佐賀県食品衛生条例施行規則 (抄)

(委任)

第 1 6 条 と畜場又は食鳥処理場内において法〔食品衛生法〕第 6 条、第 1 0 条、第 1 2 条並びに第 1 3 条第 2 項及び第 3 項の規定に違反した場合における法第 5 4 条の規定による処置命令に関する事務は、佐賀県食肉衛生検査所長に委任する。

2 施 設

(ア) 所在地	多久市南多久町大字下多久4127
(イ) 敷地面積	958.32m ²
(ウ) 建 物	本 館 鉄筋コンクリート 2階建 669.56m ²
	1階 383.33m ²
	2階 286.23m ²
	車 庫 鉄骨スレート造 平屋 22.04m ²
	機械室 鉄筋コンクリート 平屋 24.00m ²
	倉 庫 プレハブ物置 6.25m ²
	合計面積 721.85m ²
	建築面積 423.48m ²
(エ) 工 期	起工 昭和55年 8月 5日
	竣工 昭和56年 1月31日
(オ) 総事業費	143,530千円
	設計監理委託 3,850千円(昭和53年度、55年度)
	建築工事費 104,526千円(昭和55年度、56年度)
	初度調度費その他 35,154千円(昭和53年度、55年度)
(カ) その後の主な増改築等	
	事務所増築工事(平成3年度、4年度)
	建築工事費 10,300千円
	倉庫増築工事(平成4年度)
	建築工事費 2,360千円
	プレハブ倉庫新築工事(平成11年度)
	建築工事費 283千円
	BSE検査室増築工事(平成14年度)
	設計監理委託 578千円
	建築工事費 7,770千円
	受変電設備、空調設備改修工事(平成19年度)
	設計監理委託 1,029千円
	受変電設備等改修工事 10,332千円
	空調設備改修工事 6,265千円
	女子休養室改修工事(平成24年度)
	建築工事費 1,250千円

外壁改修工事（平成25年度）

設計監理委託 777千円

建築工事費 9,341千円

構内電話設備更新工事（平成27年度）

建築工事費 518千円

食肉衛生検査所内部改修工事（令和元年度）

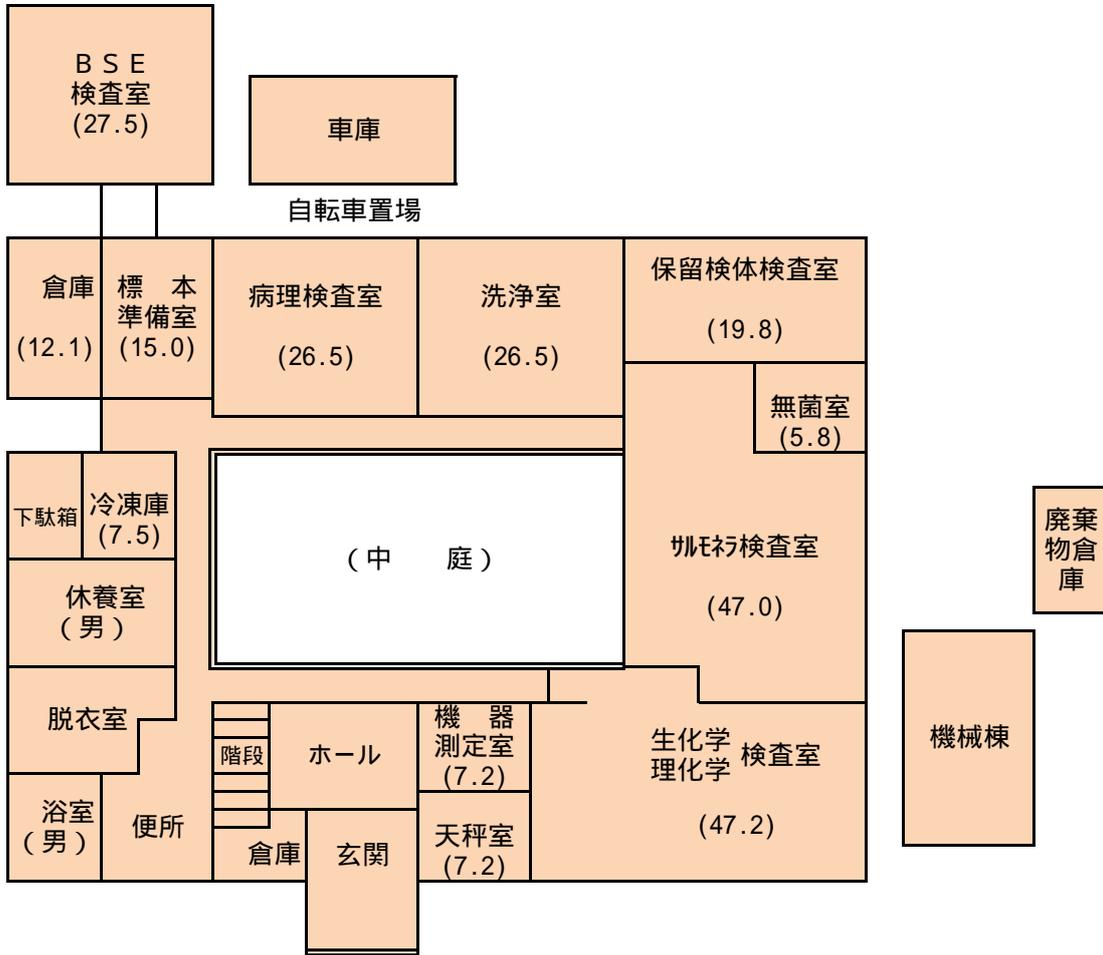
設計監理委託 1,388千円

建築工事費 11,982千円

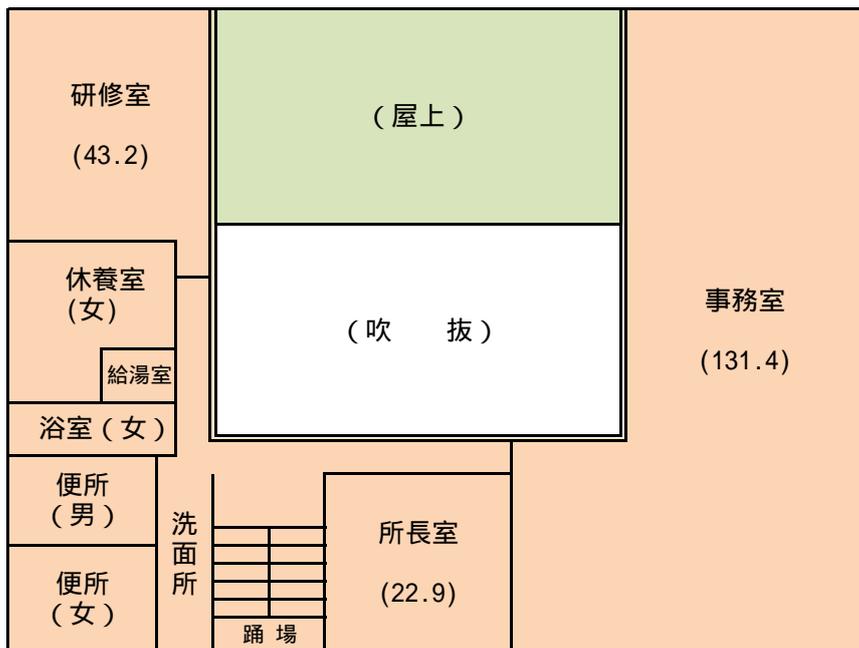
機械設備その他工事 14,053千円

平 面 図

1 階



2 階



() 書きは室面積 (単位: m²)

3 備 品

主要検査機器

(単位：円)

品 名	数	規 格	製作社名	購入金額	購入年月日	設置場所
安全キャビネット	1	MHE-130AJ	サ ン ヨ ー	1,481,550	H13.10.15	B S E 検査室
ドラフトチャンバー	1	DF-11AK型-1200	ダ ル ト ン	1,638,000	H15. 3.26	B S E 検査室
ドラフトチャンバー	1	TQ-600-2型	ダ ル ト ン	2,131,500	H18. 1.24	理化学検査室
ドラフトチャンバー	1	TQ-610-2T型	ダ ル ト ン	3,091,200	H20. 3. 7	病 理 検 査 室
安全キャビネット	1	VH-1300BH-2A2	(株)日本医科 器 械 製 作 所	1,470,000	H23. 6. 7	細 菌 検 査 室
リアルタイムPCR 増幅装置	1	C F D - 3120 J 1	バイオラッド (株)	1,596,000	H24. 4.18	細 菌 検 査 室
超低温フリーザー	1	M D F - U 3 3 V	パナソニックヘル スケア(株)	1,596,000	H25.11.21	細 菌 検 査 室
高速大容量冷却遠心機	1	7000	久保田商事(株)	2,467,500	H26. 2.28	理化学検査室
密封式自動固定包埋装 置	1	ティシュー・テッ ク V I P - 6	サクラファイン テックジャパン (株)	4,987,500	H26. 3.11	病 理 検 査 室
システム生物顕微鏡 (撮影装置付)	1	顕微鏡 顕微鏡用 デジタルカメラ	オリンパス(株)	3,893,400	H26. 3.20	細 菌 検 査 室
微量高速冷却遠心機	1	M X - 3 0 7	(株)トミー精工	1,112,400	H26. 9.18	B S E 検査室
ミクロトーム	1	R E M - 7 1 0 ・ S B	大和光機工業 (株)	1,080,000	H26.10.28	病 理 検 査 室
高速液体クロマトグラ フシステム	1	Agilent 1 2 6 0 Infinity	アジレント・テ クノロジー(株)	8,640,000	H28.2.12	理化学検査室
臨床化学分析装置	1	スポットケム EZ SP-4430	アークレイ(株)	1,074,600	H28.5.19	理化学検査室
顕微鏡画像撮影装置	1	O L Y M P U S D P 7 3	オリンパス(株)	1,749,600	H28.8.25	病 理 検 査 室
パラフィン包埋ブロッ ク作成装置	1	ティシュー・テッ ク TEC 5	サクラ精機(株)	1,674,000	H28.9.9	病 理 検 査 室
凍結組織切片作成装置	1	ポラーB、ヒスト テックPIN-600	サクラファイン テックジャパン (株)	3,942,000	H29. 7.20	病 理 検 査 室
生物顕微鏡	1	BX53LED-44	オリンパス(株)	1,744,200	H29.10. 4	病 理 検 査 室
撮影機 カメラスタン ドMFシリーズ	1	MF-MD-LED-2	(株)エス・エフ シー	1,059,480	H30.8. 29	細 菌 検 査 室
ロータリーエバポレー ター	1	R-300	(株)ビュッヒ	1,031,400	H30.11. 14	理化学検査室
マイクロプレートリー ダー	1	FCベーシック	サーモフィッ シャーサイエン ティフィック(株)	1,156,680	R1.7.25	B S E 検査室
超音波洗浄自動洗浄機	1	PG8583	久保田商事(株)	1,647,800	R2.1.28	理化学検査室

4 手 数 料

(1) と畜検査手数料

R2.6.30 現在 (円/頭)

畜 種	手 数 料	
	時 間 内	時 間 外
牛	660	1,300
馬	660	1,300
豚	330	670
めん羊・山羊	230	440

(2) 事務手数料(と畜検査実施証明等)

1件 350円

(参考) 佐賀県食肉センターの使用料及び解体料

R2.6.30 現在 (円/頭)、消費税込

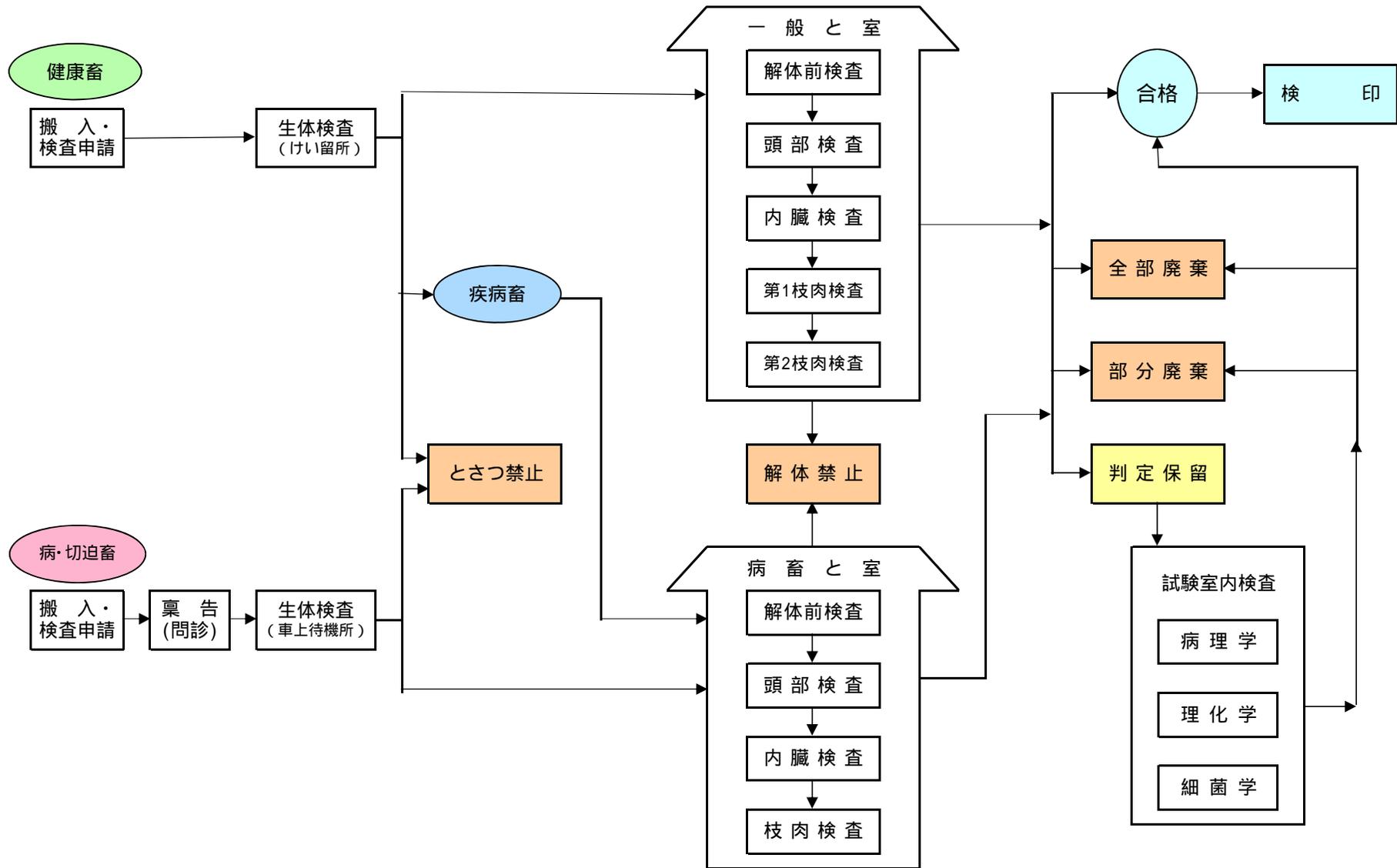
項 目 畜 種	と 場 使 用 料		解 体 手 数 料		
	時 間 内	時 間 外	一般解体料	事 故 畜 解 体 料	
				時 間 内	時 間 外
牛・種雄牛	2,750	5,500	5,038	8,338	14,850
とく	1,925	4,400	4,510	7,975	14,850
乳とく	1,155	2,585	1,441	2,541	4,950
馬・種雄馬	1,650	4,400	4,510	7,975	14,850
豚大貫	770	2,200	2,552	4,857	9,900
豚	770	2,200	1,276	2,420	4,950
めん羊・山羊	385	1,100	693	1,265	2,475

5 県内のと畜場



と畜場番号	と畜場名	運営形態	備考
	太良食肉センター	組合	昭和46年7月開設
	佐賀県食肉センター	一般社団法人	昭和56年1月開設

6 と畜検査フロー



第2章 検査事業

1 検査事業の概要

当検査所は、食肉の安全確保を図るため、家畜疾病等の排除を行うとともに、と畜場内の処理工程における食肉の衛生的取扱いについて監視指導を行っている。

さらに、食肉、鶏卵等の残留有害物質検査、枝肉の指標細菌数の他に、腸管出血性大腸菌、サルモネラの検査等を実施した。

(1) と畜検査頭数の推移

と畜頭数は、ここ数年減少している。

今年度の総検査頭数は110,686頭で、前年度と比較して1.2%(1,302頭)の減少である。

畜種別にみると牛5,396頭、とく3頭、豚105,283頭、山羊4頭となっており、牛・とくは前年度と比較して1.4%(77頭)増加、豚は前年度と比較して1.3%(1,382頭)減少している。

(2) と畜検査頭数の内訳

肉用牛5,222頭、乳用牛174頭、とく3頭、豚105,283頭(佐賀県食肉センター92,386頭、太良食肉センター12,897頭)、山羊4頭。総検査頭数に占める割合は牛・とくが4.88%、豚が95.11%である。

病畜として搬入された獣畜は599頭で総検査頭数の0.54%であり、畜種別では牛596頭、とく3頭、豚0頭、馬0頭であった。

(3) 検査結果に基づく措置

全部廃棄

全部廃棄頭数は、牛83頭、とく1頭、豚189頭、計273頭であった。

牛は、白血病が32頭、尿毒症が21頭、膿毒症が7頭、敗血症が8頭、全身性の変性が12頭、全身性の腫瘍が1頭、全身性の炎症が1頭、高度の黄疸が1頭であった。とくは、尿毒症が1頭であった。

豚は、膿毒症が171頭、敗血症が10頭、豚丹毒が2頭、尿毒症が1頭、全身性の変性が3頭、白血病が2頭であった。

部分廃棄

牛・とく・馬の部分廃棄件数の器官別内訳は、呼吸器系16.4%、循環器系1.6%、消化器系54.5%、泌尿生殖器系19.0%、運動器系及びその他8.5%であった。豚の部分廃棄件数の器官別内訳は、呼吸器系59.1%、循環器系7.2%、消化器系28.2%、泌尿生殖器系3.7%、運動器系及びその他1.8%であった。

(4) 病畜の検査状況

病畜の検査結果に基づく疾患の分類は、呼吸器系疾患17.0%、循環器系疾患0.8%、肝疾患16.0%、消化器系疾患7.2%、泌尿器系疾患6.2%、生殖器系疾患2.3%、運動器系疾患18.2%、その他の疾患20.1%、全部廃棄12.2%であった。

(5) B S E 検査

平成 29 年 4 月 1 日からの健康牛の BSE 検査廃止に伴い、24 か月齢以上の牛のうち疾病鑑別の観点から検査が必要であると判断した牛(症状を呈する牛)のみ検査を実施した。今年度は 4 頭検査を行い、全頭陰性であった。

(6) 精密検査

と畜場での生体及び解体後の検査で精密検査を要するものについては、試験室において病理学的、理化学的、細菌学的検査を実施した。

(7) 衛生管理指導

佐賀県食肉センターで 4 回、太良食肉センターで 9 回の立入検査を実施した。と畜場法に基づく衛生管理が適切に実施されているかの確認、指導を行うとともに、衛生講習会を実施することにより、従事者の衛生に対する意識向上を図った。

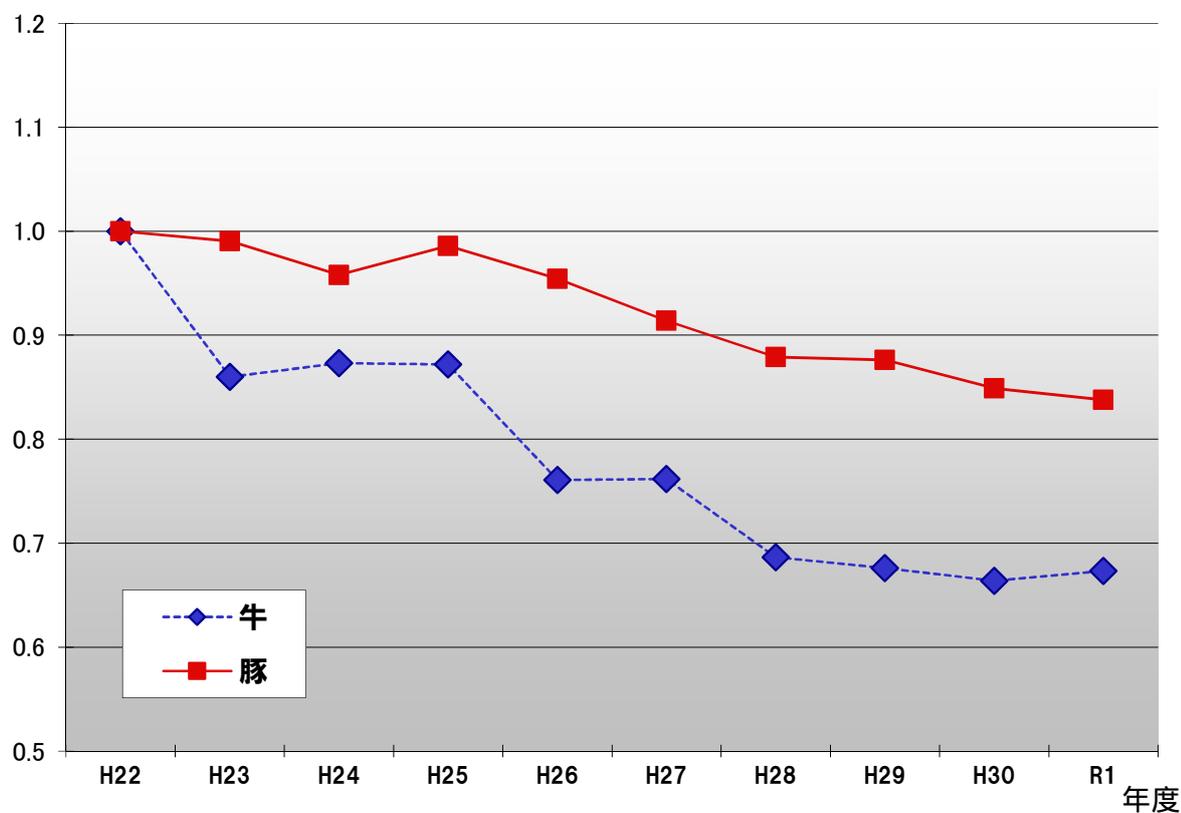
2 検査統計

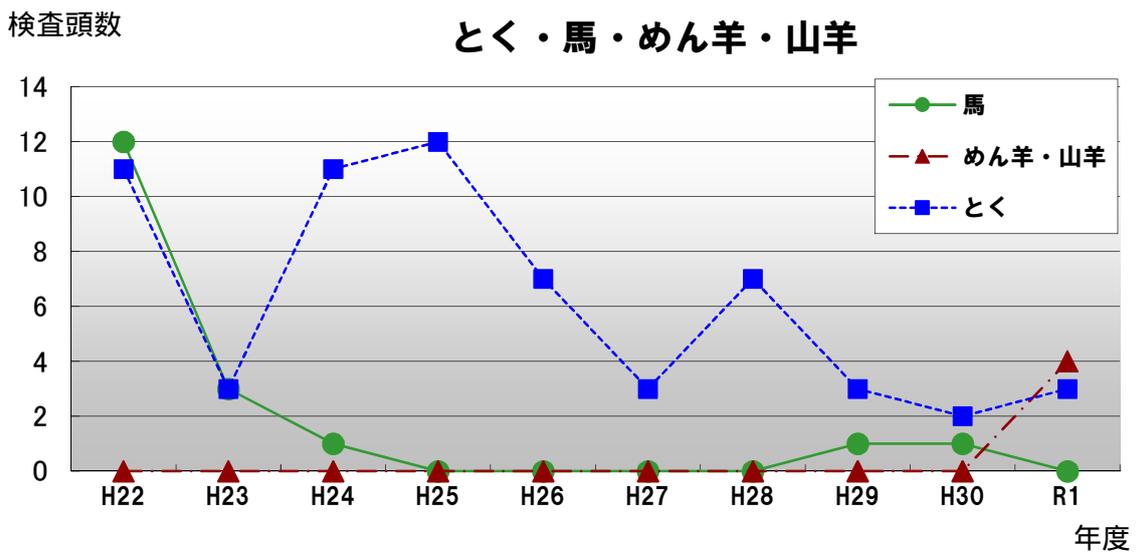
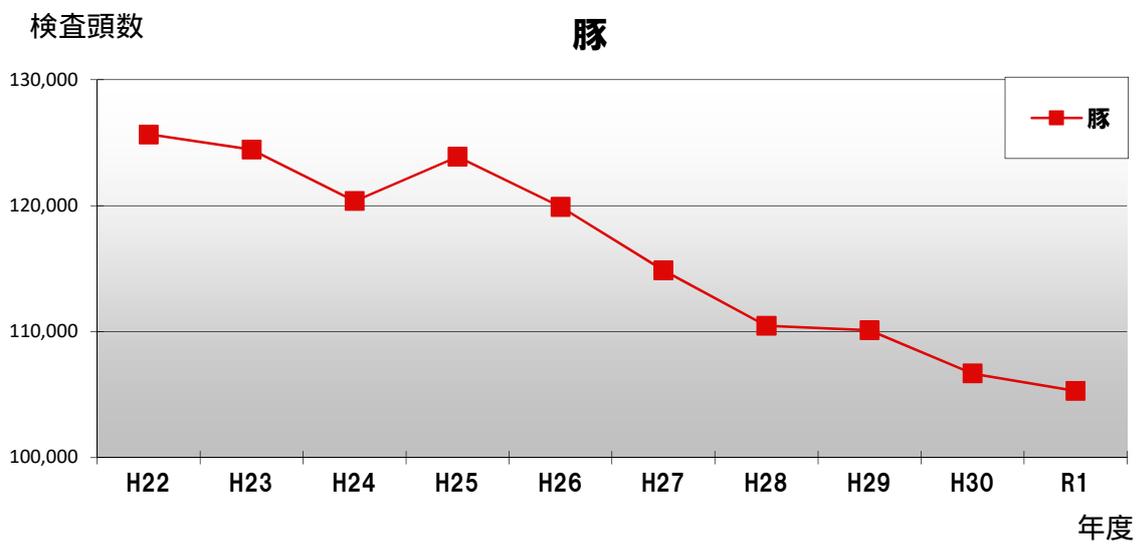
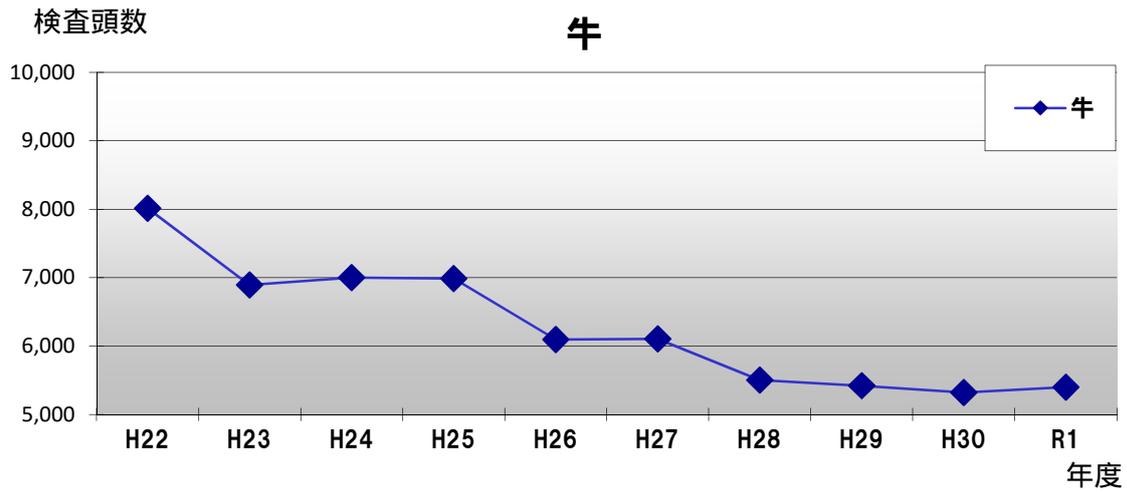
と畜検査頭数

(1) と畜検査頭数の推移

年度	畜種 牛	とく	馬	豚	めん羊・山羊	計
平成22年度	8,014	11	12	125,664	0	133,701
平成23年度	6,890	3	3	124,449	0	131,345
平成24年度	6,998	11	1	120,367	0	127,377
平成25年度	6,986	12	0	123,890	0	130,888
平成26年度	6,096	7	0	119,898	0	126,001
平成27年度	6,103	3	0	114,864	0	120,970
平成28年度	5,500	7	0	110,453	0	115,960
平成29年度	5,418	3	1	110,109	0	115,531
平成30年度	5,320	2	1	106,665	0	111,988
令和元年度	5,396	3	0	105,283	4	110,686

平成22年度の検査頭数を1.0とした場合の牛豚のと畜検査頭数の増減比較





(2) と畜検査頭数の内訳

と畜場別・月別と畜検査頭数(令和元年度)

(県計)

畜種\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
肉用牛	493	403	360	454	362	418	482	526	482	431	439	372	5,222
乳用牛	16	15	12	18	10	20	14	17	18	14	7	13	174
とく	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豚	8,776	8,745	7,985	9,041	8,131	8,493	9,328	9,084	9,282	9,233	8,308	8,877	105,283
めん羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山羊	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
計	9,287	9,163	8,357	9,513	8,503	8,931	9,828	9,628	9,782	9,678	8,754	9,262	110,686

(佐賀県食肉センター)

畜種\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
肉用牛	493	403	360	454	362	418	482	526	482	431	439	372	5,222
乳用牛	16	15	12	18	10	20	14	17	18	14	7	13	174
とく	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
馬	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
豚	7,747	7,723	7,148	7,986	7,180	7,370	8,059	8,069	8,058	8,092	7,271	7,683	92,386
めん羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山羊	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	4
計	8,258	8,141	7,520	8,458	7,552	7,808	8,559	8,613	8,558	8,537	7,717	8,068	97,789

(太良食肉センター)

畜種\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
豚	1,029	1,022	837	1,055	951	1,123	1,269	1,015	1,224	1,141	1,037	1,194	12,897
めん羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山羊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	1,029	1,022	837	1,055	951	1,123	1,269	1,015	1,224	1,141	1,037	1,194	12,897

月別時間外検査頭数

(県計)

畜種 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
牛	4	6	11	5	5	7	2	5	4	7	8	6	70
とく								1					1
馬													0
豚													0
めん羊・山羊													0
計	4	6	11	5	5	7	2	6	4	7	8	6	71

月別病畜検査頭数

(県計)

(時間外含む)

畜種 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
牛	66	42	47	53	46	57	47	48	45	49	44	52	596
とく	2							1					3
馬													0
豚													0
めん羊・山羊													0
計	68	42	47	53	46	57	47	49	45	49	44	52	599

(3) 検査結果に基づく措置状況

と畜検査措置別頭数

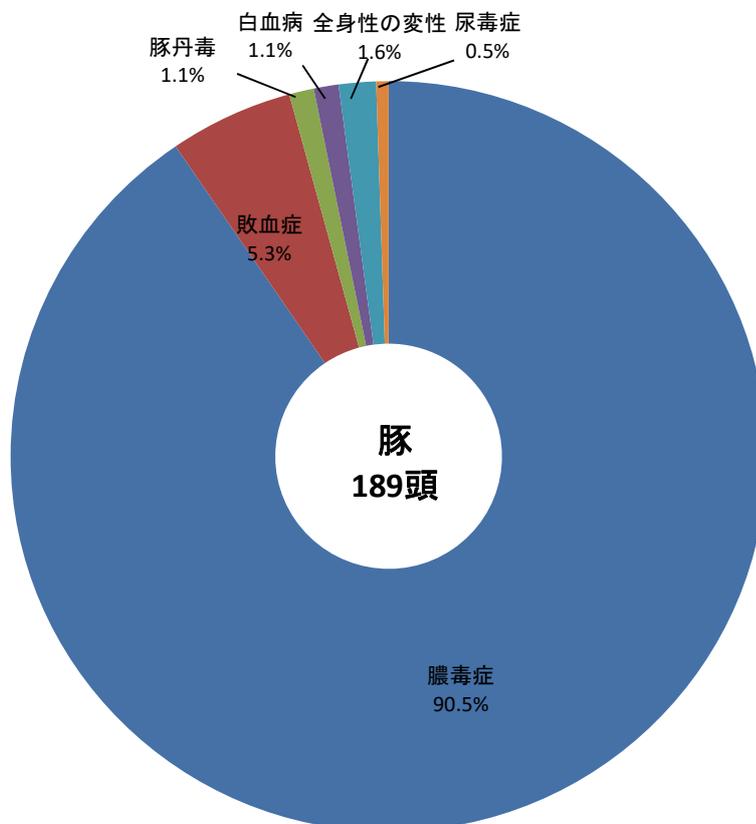
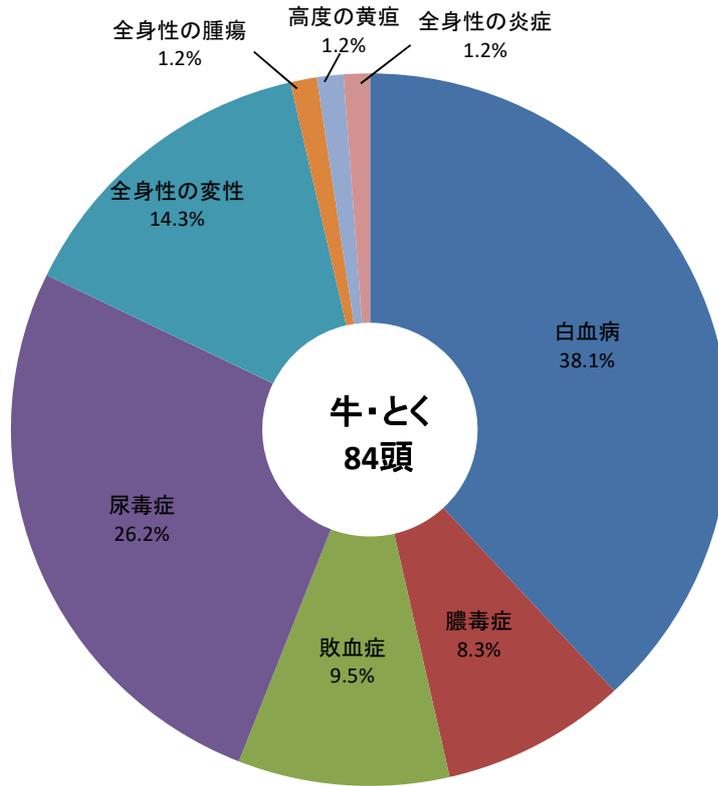
	牛	とく	馬	豚		めん羊 山羊	佐賀県 食肉セ ンター 計	太良 食肉セ ンター 計	県 計
				佐賀県 食肉セ ンター	太良 食肉セ ンター				
と畜検査頭数	5,396	3	0	92,386	12,897	4	97,789	12,897	110,686
措 置 頭 数	とさつ解体禁止	0	0	0	0	0	0	0	0
	全部廃棄	83	1	0	62	127	0	146	273
	部分廃棄	3,535	2	0	65,682	9,402	0	69,219	78,621
	計	3,618	3	0	65,744	9,529	0	69,365	78,894

太良食肉センターは、R元年度は豚のみ

病名別全部廃棄頭数

畜 種	牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	計
豚 丹 毒				2		2
膿 毒 症	7			171		178
敗 血 症	8			10		18
尿 毒 症	21	1		1		23
高 度 の 黄 疸	1					1
高 度 の 水 腫						0
全 身 性 の 腫 瘍	1					1
全 身 性 の 炎 症	1					1
全 身 性 の 変 性	12			3		15
白 血 病	32			2		34
豚 赤 痢						0
悪 性 水 腫						0
計	83	1	0	189	0	273

病名別全部廃棄の割合



病名別部分廃棄頭数

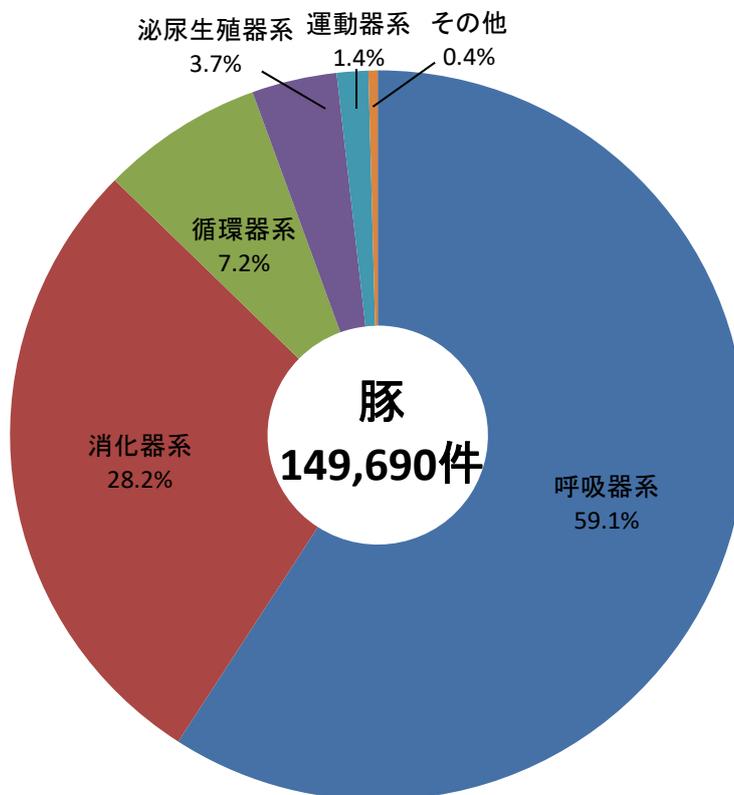
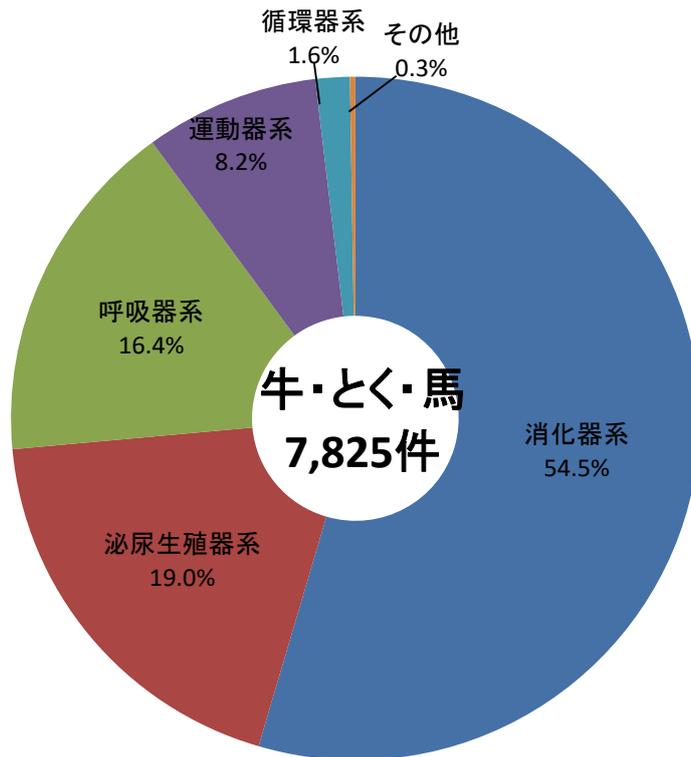
病名		畜種		とく	馬	豚	めん羊 山羊	計
		牛						
呼吸器系	鼻炎							0
	肺炎	424				10,256		10,680
	SEP軽度					35,852		35,852
	SEP重度					6,020		6,020
	へモ肺炎					504		504
	肺膿瘍	35				1,862		1,897
	肺気腫	89				1		90
	豚肺虫症							0
	胸膜炎	591				21,487		22,078
	化膿性胸膜炎	15				380		395
	横隔膜炎	61				12,110		12,171
	横隔膜膿瘍	63				30		93
	肺充血					1		1
	呼吸器系の腫瘍	1						1
	呼吸器系の奇形							0
	その他	4				3		7
	小計	1,283	0	0		88,506	0	89,789
循環器系	心筋炎	4				30		34
	心臓肥大	1				131		132
	心外膜炎	74				7,005		7,079
	心筋変性	10				156		166
	創傷性心膜炎							0
	心筋出血	22				63		85
	心内膜炎	2				5		7
	心臓の奇形							0
	脾包膜炎	1				3,192		3,193
	脾臓の腫瘍					3		3
	捻転脾					7		7
	脾出血性梗塞					13		13
	その他	12				100		112
小計	126	0	0		10,705	0	10,831	

病名	畜種						計
		牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	
消化器系	胃 炎	323			3,273		3,596
	胃 潰瘍	1					1
	小 腸 炎	148			5,801		5,949
	大 腸 炎	142			9,010		9,152
	腸 ヘルニア				1,109		1,109
	非定型抗酸菌症				437		437
	腸間膜脂肪壊死	838					838
	直 腸 脱	2			40		42
	腸 気泡症				4		4
	腹 膜 炎	31			3,343		3,374
	腹 膜 膿瘍	12			128		140
	豚 回虫症						0
	肝 炎	299			928		1,227
	肝 包膜炎	211			5,185		5,396
	間質性肝炎				7,599		7,599
	退 色 肝				906		906
	肝 出血	1,046			133		1,179
	鋸 屑 肝	444					444
	肝 膿瘍	115			26		141
	胆 管 炎	243			1		244
	肝 硬変	4			17		21
	肝 富脈斑	114					114
	肝 の 変 性	26			2		28
	囊 胞 肝	3			3		6
	肝 纖維症						0
	肝ミコバクテリウム症						0
	肝 蛭 症	29					29
	脾 臓 水 腫				668		668
	消化器系の腫瘍						0
	消化器系の奇形	1			1		2
	寄 生 虫 症						0

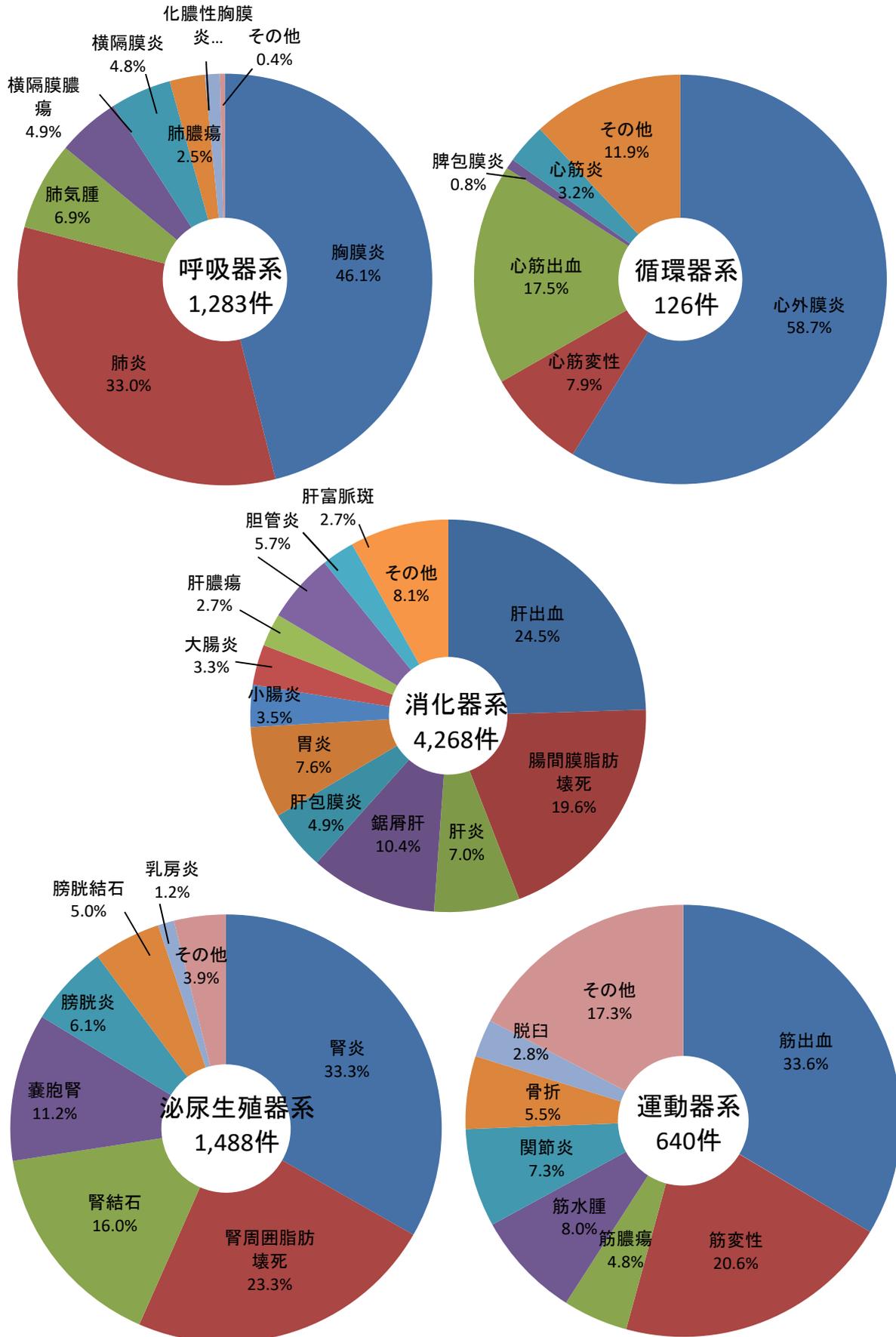
病名	畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	計
	消化器系	肝小葉間静脈炎	15				
	肝砂粒症						0
	寄生虫性肝炎				3,577		3,577
	その他	221			1		222
	小計	4,268	0	0	42,192	0	46,460
泌尿生殖器系	腎炎	495			1,891		2,386
	腎結石	238					238
	嚢胞腎	166			2,073		2,239
	腎芽腫						0
	腎の変性	5					5
	腎周囲脂肪壊死	347					347
	膀胱炎	91			1,072		1,163
	膀胱結石	75			234		309
	尿道炎	4					4
	尿道結石	4					4
	生殖器奇形						0
	卵巣嚢腫	2			7		9
	子宮炎	14			185		199
	子宮蓄膿症	2			5		7
	子宮・膣脱	2			6		8
	妊娠子宮	20			97		117
	乳房炎	18			40		58
	後産停滞						0
	上記以外の炎症	2					2
	上記以外の腫瘍	2			1		3
化膿性膀胱炎	1			1		2	
小計	1,488	0	0	5,612	0	7,100	
運動器系	関節炎	47			269		316
	脱臼	18			1		19
	骨折	35			135		170
	外傷				2		2

病名	畜種	牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	計
	運動器系	筋炎	1				
筋変性		131	1		174		306
筋出血		214	1		625		840
スポーツ							0
筋膿瘍		30	1		762		793
筋水腫		51			8		59
脊髄膿瘍					17		17
放線菌症		8					8
蹄葉炎		1					1
上記以外の炎症		8	1		65		74
上記以外の変性		90			13		103
その他		2					2
小計		636	4	0	2,071	0	2,711
その他		消化器以外の寄生虫症					
	黄疸	2					2
	火傷						0
	皮下膿瘍	16			602		618
	皮膚メラノーマ				2		2
	白内障						0
	大脳皮質壊死症						0
	脳炎						0
	眼球の腫瘍						0
	フレグモ－ネ						0
	メラニン沈着症	1					1
	その他	1					1
	小計	20	0	0	604	0	624
合計	7,821	4	0	149,690	0	157,515	

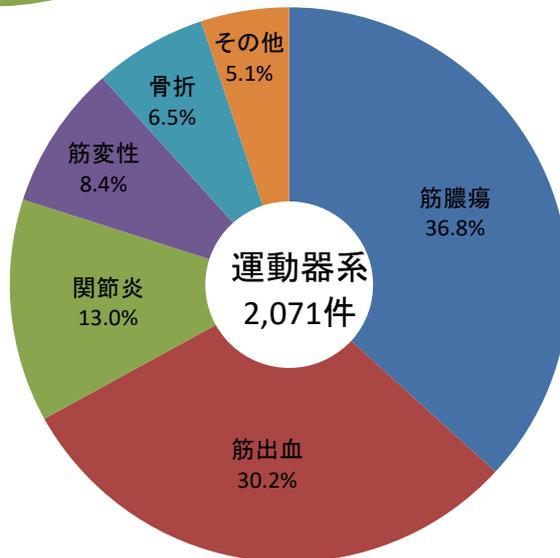
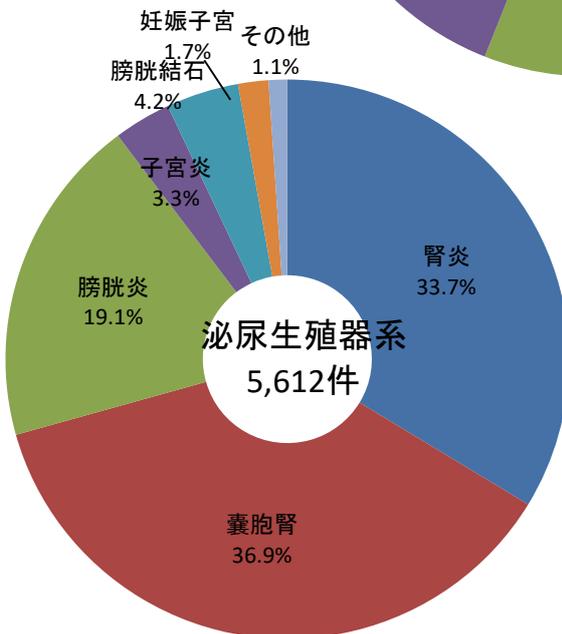
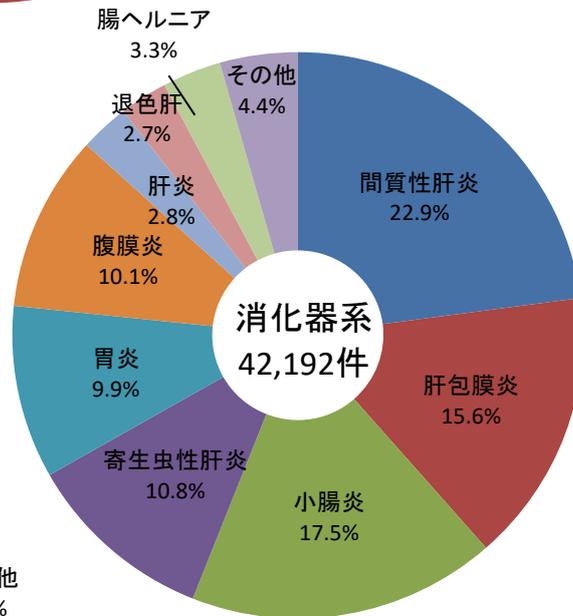
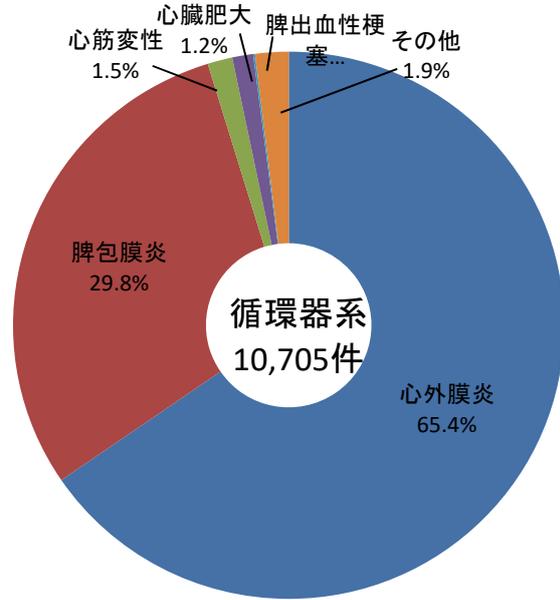
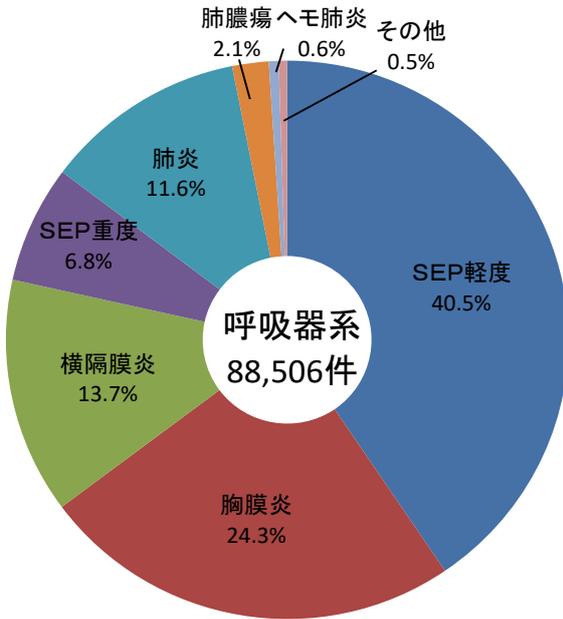
畜種別部分廃棄件数の割合



部分廃棄件数の割合（牛・とく・馬）



部分廃棄件数の割合（豚）



(4) 病畜の検査状況(県計頭数)

病名別分類

病名	検査結果			
	牛		とく	豚
	時間内	時間外	時間内	時間内
肺炎・肺膿瘍	72	8		
肺気腫・肺水腫	12	2		
胸膜炎・横隔膜炎	7	1		
肝炎・肝膿瘍・胆管炎	70	7		
肝硬変・肝出血・うっ血	17	1		
肝 蛭 症				
急性・慢性鼓脹症				
胃炎・胃腸炎・胃潰瘍	15			
第四胃変位	4	1		
腸炎・腸捻転	16	4		
直腸脱(含ヘルニア)				
腹 膜 炎	1			
食滞・弛緩症	2			
腎 炎	17	1		
尿石症(腎・膀胱結石)	8	2		
膀 胱 炎	8	1		
子宮内膜炎・子宮蓄膿症				
子 宮 ・ 膣 脱		1		
難産・早産				
産前・産後起立不能	1			
乳房炎(含壊疽性)	11			
乳頭・乳房損傷				
筋肉炎(含膿瘍)	5	1		
筋 肉 水 腫	3	1		
筋 肉 変 性	2			
筋 肉 出 血	8	2	1	
関 節 炎	27	3		
脱臼・亜脱臼・捻挫	16	6		
骨 折	26	5		
打 撲 傷	1			
趾間腐爛・蹄葉炎	1			

病名	検査結果			
	牛		とく	豚
	時間内	時間外	時間内,時間外	時間内
腰 痠 ・ 腰 麻 痺	9			
熱 射 病 ・ 日 射 病	3	2		
放 線 菌 症	1		1	
脂 肪 壊 死 症	30	5		
そ の 他 の 疾 病	40	3		
著 変 な し	31	3		
膿 毒 症	6			
敗 血 症	4	1		
尿 毒 症	15	5	1	
高 度 の 水 腫				
白 血 病	23	3		
全 身 性 の 変 性	11	1		
全 身 性 の 腫 瘍	1			
全 身 性 の 炎 症	1			
高 度 の 黄 疸	1			
計	526	70	3	0

疾患別分類

疾患の分類	検査結果			
	牛	とく	豚	合計
呼 吸 器 系 疾 患	102 (17.1%)	1 (33.3%)		103 (17.2%)
肝 疾 患	95 (15.9%)			95 (15.9%)
消 化 器 系 疾 患	43 (7.2%)	1 (33.3%)		44 (7.3%)
泌 尿 器 系 疾 患	37 (6.2%)			37 (6.2%)
生 殖 器 系 疾 患	13 (2.2%)			13 (2.2%)
運 動 器 系 疾 患	107 (18.0%)	1 (33.4%)		108 (18.0%)
そ の 他 の 疾 患	127 (21.3%)			127 (21.2%)
全 部 廃 棄	72 (12.1%)			72 (12.0%)
計	596	3	0	599

(5) BSEスクリーニング検査結果

平成31年4月～令和2年3月

区 分	検 査 頭 数	陰 性	陽 性
生後24か月齢以上で神経症状等を呈する牛	4	4	0
めん羊	0	0	0
山羊	0	0	0
合 計	4	4	0



(6) 精密検査

病名別検査実施状況

病名	検査頭数						検査件数							疾病決定頭数						
	牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	計	細菌検査			病理検査	理化学検査	寄生虫 原虫 その他	BSE 検査	計	牛	とく	馬	豚	めん羊 山羊	計
							鏡検	培養	同定											
豚丹毒				31		31	82	370	59					511				2		2
膿毒症	7			3		10	325	432	21					778	5			2		7
敗血症	11			18		29	140	148			42			330	8			10		18
悪性水腫											8			8						
尿毒症	64	1		3		68					134			134	21	1		1		23
黄疸	14			2		16					40			40	1					1
水腫	1					1					8			8						
腫瘍	35			2		37				602	411			1,013	1					1
全身性の炎症																				
変性萎縮																				
白血病	1			1		2				30	8			38	32			2		34
BSE	4					4						4								
その他	23			35		58				144	48			192	1					1
計	160	1		95		256	547	950	80	776	699		4	3,056	69	1		17		87

検査対象：24か月齢以上のうち疾病鑑別の観点から検査が必要であると判断した牛

食品衛生法に基づく有害物質残留検査（厚生労働省モニタリング検査）

検体品名	牛		豚		鶏		はちみつ	養殖魚	乳	計
	筋肉	腎臓	筋肉	腎臓	筋肉	卵				
検体数	19	19	20	20	30	16	9	6	4	143
検査延件数	99	19	110	21	330	96	9	6	4	694
陽性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陰性数	19	19	20	20	30	16	9	6	4	143

微生物学的な簡易検査法、高速液体クロマトグラフィーを用いた残留抗生物質等の検査

食品衛生法に基づく有害物質残留検査（独自モニタリング検査）

畜種	牛		とく		馬		豚		めん羊 山羊		計
	筋肉	腎	筋肉	腎	筋肉	腎	筋肉	腎	筋肉	腎	
検査頭数	139	0	0	0	0	0	144	0	0	0	283
検査延件数	139	0	0	0	0	0	144	0	0	0	283
陽性数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陰性数	139	0	0	0	0	0	144	0	0	0	283

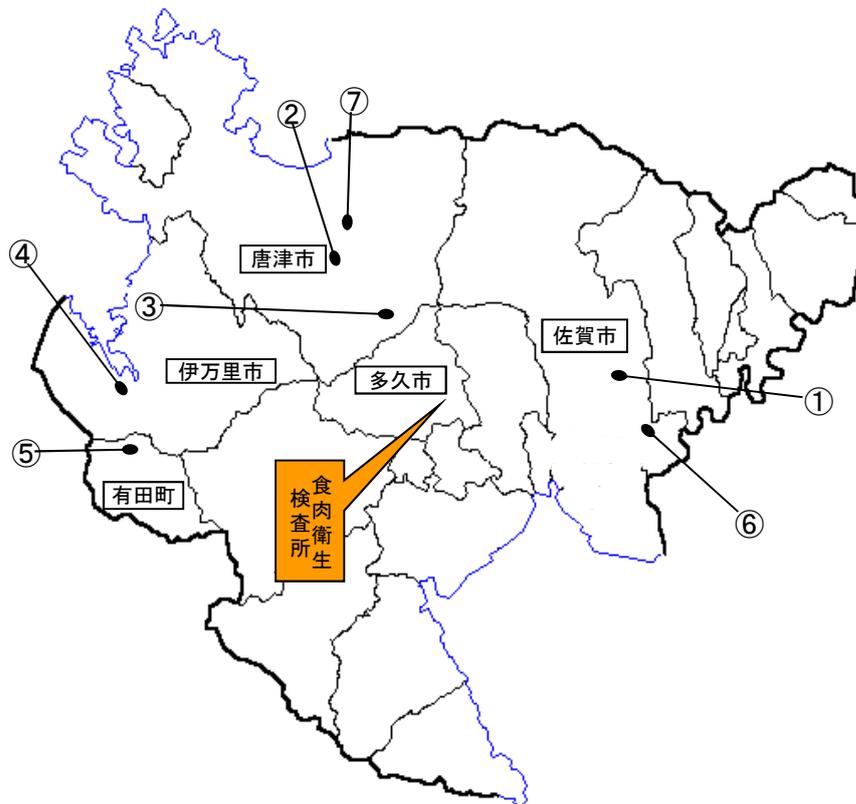
微生物学的な簡易検査法、高速液体クロマトグラフィーを用いた残留抗生物質等の検査

食中毒菌汚染対策事業

検査部位 検査項目	牛				豚	その他 (施設器具等)	合計
	枝肉	内臓	糞便	小計	枝肉		
腸管出血性大腸菌	20	0	0	20	0	0	20
サルモネラ	20	0	0	20	40	0	60
一般細菌	20	0	0	20	40	0	60
大腸菌群	20	0	0	20	40	0	60
E.coli	20	0	0	20	40	0	60

第3章 食鳥肉衛生指導事業

1 県内食鳥処理場位置図



区分	番号	食鳥処理場名	所在地	処理食鳥	年間処理羽数
大規模食鳥処理場		(株)佐賀ブロイラー	佐賀市	成 鶏	約 2 2 0 万羽
		トリゼン食鳥肉協同組合	唐津市	ブロイラー	約 6 3 6 万羽
		(株)ヨコオ葎木工場	唐津市	ブロイラー	約 4 2 5 万羽
		(株)JAフーズさが 伊万里チキンフーズ工場	伊万里市	ブロイラー	約 7 4 9 万羽
		ありた(株)	西松浦郡有田町	ブロイラー	約 3 9 7 万羽
認定小規模		就労継続支援施設 東西食鶏加工	佐賀市	成 鶏	約 2 4 万羽
		山田処理場	唐津市	成 鶏	約 9 千羽

2 事業概要

食鳥検査制度発足当初（平成3年）から、大規模食鳥処理場（年間処理羽数が30万羽を超える施設）における食鳥検査を（公財）佐賀県食鳥肉衛生協会に委任している。

県内には、大規模食鳥処理場が5施設、認定小規模食鳥処理場が2施設あり、全食鳥処理場の処理羽数は、約24,515千羽である。

その内訳としては、大規模食鳥処理場が約24,269千羽で、認定小規模食鳥処理場が約246千羽であり、平成30年度に比べ、大規模食鳥処理場で約19千羽増加し、認定小規模食鳥処理場で約12千羽減少した。

当検査所では、食鳥肉の安全及び衛生確保を図るため、食鳥処理場の監視指導及び食鳥とたいの拭き取り検査並びに残留有害物質等の検査を実施するとともに、施設の整備及び衛生管理等の改善指導に努めている。

また、県内の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生した場合は、（公財）佐賀県食鳥肉衛生協会及び各食鳥処理場へ随時情報提供を行い、速やかな情報共有及び注意喚起を行う。

食鳥処理場等に対しては、引き続き感染食鳥の搬入防止や従事者の汚染防止等の周知徹底及び指導を行う。

(1)立入検査状況

処理場	施設数	立入回数	指導件数		
			構造設備	衛生管理等	計
検査対象施設 （大規模処理場）	5	15	0	22	22
確認対象施設 （認定小規模処理場）	2	6	0	11	11

(2)収去検査状況

収去検体数 （もも）	抗生物質	合成抗菌剤
	陽性数	陽性数
30	0	0

(3)拭き取り検査状況

検査項目	一般細菌	大腸菌群	サルモネラ	カンピロバクター	黄色ブドウ球菌
	1.0×10^3 cfu/cm ² 以上	陽性数	陽性数	陽性数	陽性数
施設数（7施設）	5	0	0	0	0
検体数（27検体）	5	0	0	0	0

検査対象施設 5施設、確認対象施設 2施設

食鳥とたい

(4) 食鳥検査及び確認状況

年度別羽数

(単位：羽)

検査対象施設	平成29年度	平成30年度	令和元年度
ブロイラー	21,112,462	21,768,523	22,073,478
成鶏	2,206,083	2,481,761	2,195,366
合計	23,318,545	24,250,284	24,268,844

確認対象施設	平成29年度	平成30年度	令和元年度
成鶏	255,940	258,082	245,756

月別羽数

(単位：千羽、以下四捨五入)

検査対象施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ブロイラー	1,783	1,817	1,816	1,798	1,778	1,739	1,860	1,921	2,117	1,822	1,775	1,845
成鶏	184	207	202	216	147	158	145	143	204	231	183	174
合計	1,967	2,024	2,018	2,014	1,926	1,897	2,005	2,064	2,321	2,053	1,958	2,019

確認対象施設	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
成鶏	20	19	20	22	21	20	21	21	22	19	20	21

食鳥検査に基づく措置（検査対象施設）

1) 措置羽数

(単位：羽)

種類 措置	ブロイラー	成鶏	合計
検査羽数	22,073,478	2,195,366	24,268,844
合格	21,178,186	2,175,437	23,353,623
解体禁止	82,544	0	82,544
全部廃棄	231,080	19,929	251,009
一部廃棄	581,668	0	581,668

2) 措置の理由

(単位：羽)

種類	ブロイラー			成鶏			合計		
	検査羽数	22,073,478			2,195,366			24,268,844	
措置区分	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄	禁止	全部廃棄	一部廃棄
マレック病	0	13,626	0	0	0	0	0	13,626	0
サルモネラ病	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大腸菌症	0	69,791	0	0	0	0	0	69,791	0
ブドウ球菌症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
敗血症	0	0	0	0	0	0	0	0	0
変性	11,379	10,610	73,636	0	884	0	11,379	11,494	73,636
尿酸沈着症	0	0	0	0	2	0	0	2	0
水腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腹水症	11,596	30,547	0	0	0	0	11,596	30,547	0
出血	0	443	47,296	0	0	0	0	443	47,296
炎症		88,930	460,733	0	7,602	0	0	96,532	460,733
萎縮	0	0	0	0	0	0	0	0	0
腫瘍	0	458	3	0	4,961	0	0	5,419	3
黄疸	0	59	0	0	4	0	0	63	0
外傷	0	0	0	0	0	0	0	0	0
削瘦及び発育不良	59,510	13,519	0	0	3,507	0	59,510	17,026	0
放血不良	59	1,064	0	0	2,965	0	59	4,029	0
湯漬過度	0	2,031	0	0		0	0	2,031	0
その他	0	2	0	0	4	0	0	6	0
合計	82,544	231,080	581,668	0	19,929	0	82,544	251,009	581,668
措置率(%)	0.37%	1.05%	2.64%	0.00%	0.91%	0.00%	0.34%	1.03%	2.40%

確認に基づく措置(確認対象施設)

(単位：羽)

措置		確認羽数 (245,756羽)	措置率(%)
生体の状況	廃棄	0	0.00%
体表の状況	全部廃棄	838	0.34%
	一部廃棄	0	0.00%
体壁の内側面の状況	廃棄	0	0.00%
内臓の状況	当該臓器のみ廃棄	834	0.34%
	内臓全部廃棄	0	0.00%
合計	全部廃棄	838	0.34%
	一部廃棄	834	0.34%

第4章 調査研究事業

1 調査・研究・報告の概要

学会発表

年月日	学 会 名 等	演 題 名
R1.11.8	九州地区獣医師大会 日本獣医公衆衛生学会（九州地区）	家畜豚の腹腔から検出されたオンコセルカ科線虫 <i>Setaria bernardi</i>
R1.11.8	九州地区獣医師大会 日本獣医公衆衛生学会（九州地区）	豚の骨髄に浸潤した白血病の一例(*1)
R1.11.7~8	全国食肉衛検査所協議会病理研修会	豚の椎骨(*2)
R2.1.20~1.22	食肉及び食鳥肉衛生技術研究発表会 （誌上发表）	豚の骨髄に浸潤したリンパ腫の一例(*3)

*1~3：内容が同一であるため、3の抄録のみ添付

家畜豚の腹腔から検出されたオンコセルカ科線虫 *Setaria bernardi*

○井上健、大澤加奈子、橋本喜泰、松崎祐己

佐賀県食肉衛生検査所（現、佐賀県健康増進課）

【緒言】2018年に佐賀県内のと畜場に搬入された佐賀県産の家畜豚2頭の腹腔からオンコセルカ科 *Setaria* 属線虫を検出し、*Setaria bernardi* と同定した。我が国において *S. bernardi* は、鹿児島および沖縄の野生イノシシの腹腔から2例、西表島の野生のリウキュウイノシシの腹腔および血液から、また九州の家畜豚の肺動脈内異所寄生の学会報告がそれぞれ1例あるのみで、家畜の豚腹腔からの検出は今回が初めての報告となる。

【材料と方法】2018年4月から2019年3月に佐賀県内Aと畜場に搬入された県内産の繁殖豚および肥育豚について、と畜検査で摘出された内部臓器の表面を肉眼観察して虫体を検索した。得られた虫体は99%エタノール中に保存し、形態とDNA配列を基に同定を行った。虫体の透徹にはラクトフェノールを用いた。また、DNA抽出工程を不要とするダイレクトPCRを実施し、GenBank上に登録のある *Setaria* 属線虫の12S rDNA配列の部分領域(331bp)との配列比較を行った。

【結果】繁殖豚2頭の腹腔から線虫計3匹(雄2匹、雌1匹)が検出された。肥育豚からは検出されなかった。形態の特徴と測定により、*S. bernardi* と同定された。虫体は細長く、雄虫は雌虫よりもかなり小さかった。口部は小さく、口唇、口腔、咽頭は認められなかった。尾端にかけて緩やかに細くなり、尾部には強い捲回が見られた。雄虫の体長は9.6 cm、体幅782 μm、食道の全長は1095 μmで、食道は筋性の前部と腺様の後部との2部に別れその長さはそれぞれ311 μm、101 μmであった。また、前端から神経環までの長さは244 μm、左右の交接刺は左右不同で左右の長さはそれぞれ275 μm、70 μmであった。雌虫の体長は16.2 cm、体幅1139 μm、食道の全長は878 μmで、筋性の前部266 μm腺様の後部612 μmからなり、前端から神経環までの長さは345 μmで、陰門は虫体前部に開口し、前端から陰門までの長さは578 μm、尾端は鈍円で尾端結節は顆粒状であった。12S rDNA配列のBLAST解析の結果、GenBank上で最も配列類似性が高いものは *Setaria labiatopapillosa* で90.3%の一致であった。

【考察】*Setaria* 属線虫の成虫の寄生部位は腹腔内であるため病原性は一般的に低いとされる。しかし、イノシシへの *S. bernardi* 寄生によって線維索性腹膜炎が引き起こされたという報告がある。これまでの報告は九州南部が中心であったが、今回本県でも認められたことから、九州地方に広く分布していることが示唆された。今後と畜検査を通して、これまでほとんど知られていない本虫による家畜豚の腹膜炎発生の実態を明らかにしていきたい。

豚の骨髄に浸潤したリンパ腫の一例

佐賀県食肉衛生検査所 ○松久友季絵、田中葉子、藤木美和、力武美保子

佐賀大学医学部病因病態科学講座臨床病態病理学分野

はじめに

豚のリンパ腫は、一般的にリンパ系組織及び肝臓に腫瘍病変を形成する症例が多いが、今回、骨髄に病変を認めた豚のリンパ腫の症例に遭遇したため報告する。

材料及び方法

1. 症例

豚、雑種、去勢、約 6 カ月齢。一般畜として搬入され、生体検査で著変は認めなかった。

2. 病理組織学的検査

(1) スタンプ法

腎臓及び内腸骨リンパ節のスタンプ標本を作製し、ディフクイック染色を行った。

(2) ヘマトキシリン・エオジン染色（以下「HE 染色」とする）

椎骨骨髄、腎臓及び内腸骨リンパ節を採取し、10%中性緩衝ホルマリン液で固定後、椎骨骨髄については 10%EDTA にて脱灰を行った。定法によりパラフィン切片を作製し、HE 染色を行った。

(3) 免疫組織化学染色

抗 CD79 抗体（HM57：ニチレイ）、抗 CD3 抗体（ポリクローナル：Dako）及び抗 Ki-67 抗体（MIB-1：Dako）を用いた免疫組織化学染色を実施した。

成績

1. 肉眼所見

頸椎から尾椎にかけて、脊柱断面の骨髄に多発性に白色を呈する部位を認めた[図 1]。白色部分に脆弱性は認めなかった。肝臓及び腎臓には直径 1cm 大の白色結節が散在していた。腸間膜リンパ節及び内腸骨リンパ節は腫大し、髄様白色を呈していた。また、胸腔内～腹腔内の臓器は全て漿膜面に炎症を認めた。

2. 病理組織学的検査

(1) スタンプ所見

腎臓及び内腸骨リンパ節のスタンプ標本において、大小不同を示すクロマチンが粗な類円形～不整形核と明瞭な複数の核小体を有する独立円形細胞を密に採取した。

(2) HE 染色所見

骨髄の白色を呈する部分では、中型～大型の類円形～不整形核を持つリンパ球様の

腫瘍細胞が増殖しており、核分裂像を多数認めた[図 2]。腎臓の白色結節部にも同様の腫瘍細胞が、尿細管や糸球体周囲に分け入るように浸潤していた。内腸骨リンパ節ではリンパ濾胞構造が消失し、同様の腫瘍細胞がびまん性に増殖していた。

(3) 免疫組織化学染色所見

腫瘍細胞は CD79 陽性、CD3 陰性であった。また、内腸骨リンパ節の MIB-1-index は 79.6%であり、増殖活性の高いことが示された。

本症例では肉眼所見にてリンパ節の髓様腫大を認めたことからリンパ腫を疑い、精密検査を行った。骨髓に多発性に白色の病変を認めたことから、鑑別診断として多発性骨髓腫を考えたが、病理組織学的に多発性骨髓腫の特徴である偏在核や車軸核を認めなかったため除外した。免疫組織化学染色で B 細胞性マーカーである CD79 陽性であったことから、B 細胞性リンパ腫と診断した。

と畜検査においては、リンパ腫を含む白血球系腫瘍全体を広義に白血病というため[1]、行政処分は白血病として全部廃棄とした。

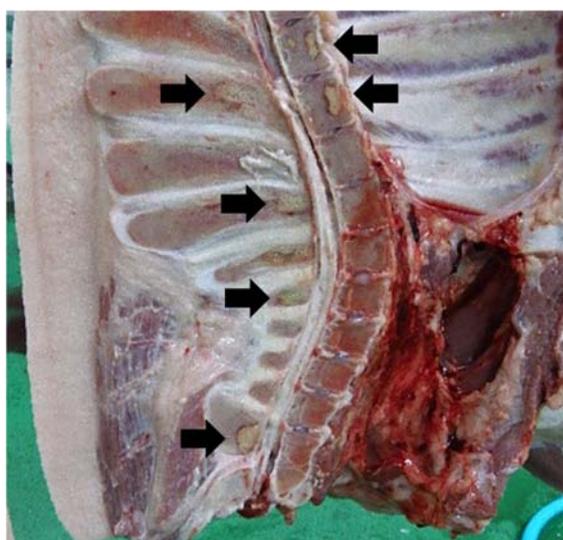


図 1：椎骨骨髓の病変

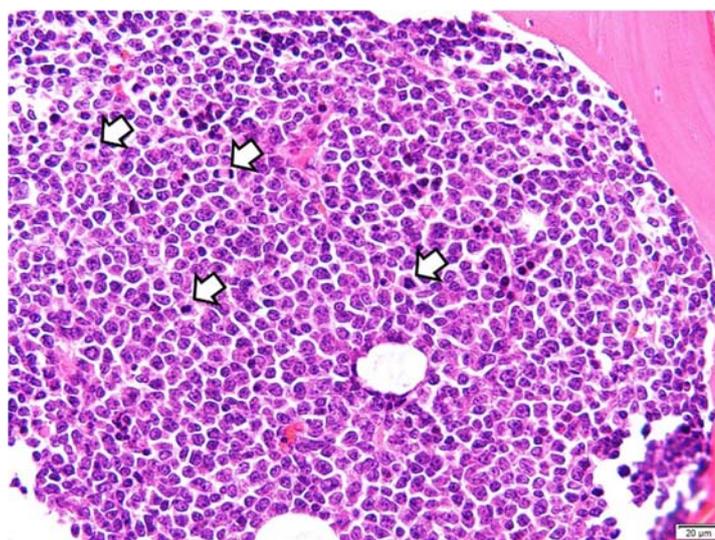


図 2：椎骨骨髓 HE 染色（矢印は核分裂像）

考察

豚の白血病の内臓病変の特徴は、肝臓病変がほとんど恒常的に存在するとされている[1]。また、全国食肉衛生検査所協議会病理部会の平成 21 年度の調査によると、豚の白血病で病変を認めることが多い臓器としては、肝臓（62%）、内腸骨リンパ節（46%）、脾臓（44%）、腎臓（43%）、腸間膜リンパ節（37%）となっており、骨髓に病変を認める症例は 5%であり、まれな症例であると考えられる。

当検査所で過去 5 年間に発生した豚の白血病をまとめた[表 1]。5 年間で 6 例発生しており、年間の発生数は平均 1.2 頭であった。当検査所の検査頭数は年間 10 万頭余であり、発生率が 10 万頭あたり 1~2 頭程度という過去の報告[2]とほぼ一致していた。病変を認

めた部位を確認すると、一般的に病変の発生することが多いとされる、肝臓、内腸骨リンパ節、脾臓、腎臓、腸間膜リンパ節には多くの症例で病変を認めていた。

本症例では、枝肉検査において病変を発見したため、枝肉を保留とすることができたが、内臓検査時に肝臓の白色結節が発見されていたにも関わらず、その時点で保留とできなかった点について反省が残った。今後は、上記のような病変の発生しやすい臓器を念頭において検査を行うとともに、今回の骨髄のようなまれな病変も見逃さないよう、検査技術の向上に努めたい。

表 1：当検査所の過去 5 年間の豚の白血病一覧

症例	年度	病変部位	白血病頭数	検査頭数
1	H26	内腸骨 L、(脾)、(肺)、その他 L	1	119,898
	H27		0	114,864
2	H28	肝、脾、腎、肺、心、(胃)、その他 L	1	110,453
3	H29	肝、(内腸骨 L)、(脾)、腎、(肺)、(心)、その他 L	1	110,109
4	H30	肝、内腸骨 L、脾、腸間膜 L、(肺)、腹膜、その他 L	3	106,665
5		肝、脾、腎、腸間膜 L、大腸、小腸、膀胱、横隔膜、その他 L		
6		肝、内腸骨 L、腎、腸間膜 L、骨髄 (本症例)		
平均			1.2	112,397.8

() 内の部位は肉眼病変を認めず、組織所見のみを認めたもの L：リンパ節

まとめ

約 6 カ月齢の豚において、骨髄に多発性に白色を呈する部分を認め、腎臓及び肝臓に白色結節の散在を認めた。病理組織学的検査の結果、リンパ球様腫瘍細胞の増殖を認め、免疫組織化学染色で B 細胞性マーカーが陽性となったため、B 細胞性リンパ腫と診断し、豚の白血病として全部廃棄処分とした。

豚の白血病の好発部位である肝臓や各リンパ節に加え、本症例の骨髄のような病変も念頭において検査を行う必要があると考えられる。

[1]全国食肉衛生検査所協議会編,新・食肉衛生検査マニュアル,245-250(2011)

[2]鹿嶋傳ら,神奈川県食肉衛生検査所における 1970-1990 年の豚腫瘍の検出状況,日獣会誌,48,436-440(1995)

2 研修・会議等参加状況

時 期	研 修 会 等 の 内 容	場 所
H31.4.25	獣医学術九州地区学会幹事会	佐 賀 県
R1.5.22	認定小規模食鳥処理場のためのHACCPの考え方を取り入れた衛生管理の手引書の説明会	福 岡 県
R1.5.24	全国食肉衛生検査所協議会ブロック代表所長会議及び理事会	東 京 都
R1.7.8	豚コレラ防疫対策打合せ会議	佐 賀 県
R1.7.9	分析機器基礎講座	福 岡 県
R1.7.9 ~ 7.12	中央畜産技術研修会	福 島 県
R1.7.17 ~ 7.18	全国食肉衛生検査所長会議 全国食肉衛生検査所協議会記念大会	東 京 都
R1.8.9	食肉市場の視察研修	京 都 府
R1.9.6	全国公衆衛生獣医師協議会・調査研究発表会	東 京 都
R1.10.10	農場から食卓までのHACCPセミナー	福 岡 県
R1.10.23 ~ 10.25	指名検査員業務の現地研修	熊 本 県
R1.10.31 ~ 11.1	九州地区食肉衛生検査所協議会大会	沖 縄 県
R1.11.6	全国食肉衛生検査所協議会微生物部会総会及び研修会	山 梨 県
R1.11.7 ~ 11.8	全国食肉衛生検査所協議会病理部会総会及び病理研修会	神 奈 川 県
R1.11.8	九州地区獣医師大会	佐 賀 県
R1.11.15	佐賀県畜産衛生技術研究発表会	佐 賀 県
R1.11.20 ~ 11.21	指名検査員業務の現地研修	宮 崎 県
R1.12.6	全国食肉衛生検査所協議会ブロック代表所長会議及び理事会	東 京 都
R1.12.19	対米等輸出食肉に係る指名検査員研修	東 京 都
R2.1.17	食肉検査データ管理システムの視察	広 島 県
R2.1.20 ~ 1.22	食肉及び食鳥肉衛生技術研修並びに研究発表会	東 京 都

R2.1.29	衛生薬業センター健康危機管理研修	佐 賀 県
R2.1.30 ~ 1.31	管理獣医師を育成するための農場経営・飼養管理に関する実習	東 京 都
R2.2.7 ~ 2.9	日本獣医師会獣医学術学会年次大会	東 京 都
R2.2.20	食肉生産技術研究開発成果発表会	東 京 都
R2.2.26 ~ 2.28	HACCPに係る食品衛生監視員養成講習会	長 崎 県

第5章 その他の事業

1 佐賀大学との調査研究

と畜検査における病理学的調査研究を佐賀大学医学部と実施しており、毎週1回、1名の検査員が佐賀大学医学部病理学教室で、調査研究及び技術の研鑽に努めている。

2 食肉に関する衛生教育及び施設研修等

畜産食品の需要が高まる今日、より一層の食肉の安全確保を図るため、関係団体の共励会及び食肉センター職員への講習会等での衛生指導を実施し、食肉衛生の向上に努めている。

対象者	実施回数	参加者数	備考
佐賀牛枝肉共励会	2回	600名	衛生指導
畜産公社管理者・従業員	3回	34名	と畜場施設の衛生管理講習会（オブザーバーとして参加）
太良食肉販売協同組合管理者・従業員	1回	14名	と畜場施設の衛生管理講習会
計	6回	648名	

白衣、衛生キャップ着用及び手洗いに関する衛生指導

3 と畜検査結果のフィードバック

安全な食肉の生産供給のため、生産者、と畜場設置者及び家畜保健衛生所等との連携を密にし、と畜検査結果データをフィードバックすることにより、生産段階で活用され、生産から流通、消費に至る総合的な食肉の安全確保に寄与している。

4 研究機関等への協力

大学などから研究材料、疾病調査及び教育教材など材料採取等の依頼があったものについては、積極的に協力している。

調査研究機関等	部位
出荷団体（JA）	豚の頭部及び肺
佐賀県衛生薬業センター	豚の血液